

避難をする勇氣

東日本大震災では、地震の後の津波に巻きこまれ、多くの人がなくなりました。そして、津波が来るまで時間があるのに、避難がおくれた人たちがいます。なぜすぐに逃げなかったのでしょうか。



「すぐに避難しなかった理由」

東日本大震災での地震の揺れがおさまった後にすぐに避難しなかった理由から、ふだんからどのようなことを心がけ、海の近くにいるときは、どのように行動すべきか話し合ってみましょう。

【上位だった理由】

- ① 自宅にもどったから (22%)
- ② 家族を探しに行ったり、むかえに行ったりしたから (21%)
- ③ 家族の安否を確認していたから (13%)
- ④ 過去の地震でも津波が来なかったから (11%)
- ⑤ 地震で散乱した物のかたづけをしていたから (10%)
- ⑥ 津波のことは考えつかなかったから (9%)
- ⑦ 仕事をしていたから (9%)

その他にも、「家族が集合するのを待っていたから」という理由もあったわ。



参考：内閣府 防災対策推進検討会議 津波避難対策検討ワーキンググループ第5回会合 情報と避難行動の関係

津波の力はすごいから、想定をこえることを考えて、早めの避難が必要だね。



中学生は、このとき少しでも早く、少しでも高いところへ避難し、最善を尽くして行動したんだね。



釜石東中学校(岩手県)の生徒の避難行動

2011(平成23)年3月11日、午後2時46分、地震が起きたとき、中学生が「津波だ! 逃げるぞ!!」とさげんで、あらかじめ決めておいた避難場所である、ございしょの里めがけて走り出しました。小学生も中学生のあとを追って走り出しました。ございしょの里の建物脇のがけが崩れていることに気づき、さらに高台の介護福祉施設へ走り出しました。中学生は小学生の手を引いて避難しました。うちは大丈夫だろうと考えて自宅にとどまっていた人たちも子どもたちが避難する様子を見て、つられて避難しました。介護福祉施設から住宅が津波にのまれ、煙が上がっているのを見えました。そして、さらに高台に位置する石材店まで走り出したのです。高台にある石材店まで避難した人たちは、全員無事でした。

中学生が率先して避難行動をとったことが、多くの人たちの命を救いました。



参考：片田敏孝著「命を守る教育 3.11 釜石からの教訓」